

敷物（緞通） （しきもの・だんつう）



写真出典：平成 28 年度版『わたしたちのまち堺』P68 堺市教育委員会

敷物は江戸時代にルーツをもち、堺緞通(さかいだんつう)は明治中期に大阪府を代表する輸出品に成長しました。今では、新素材や多種多様(たしゅたよう)な製品を生み出しています。

Q. 緞通(だんつう)ってなに？

A. 緞通(だんつう)とは、敷物の手織技術(ておりぎじゅつ)のことだよ。中近東から中国を経て日本に伝来(でんらい)して、江戸時代から近代にかけて盛(さか)んに生産されたんだよ。肥前鍋島藩(びぜんなべしまはん)でおこなわれたのが始まりで、江戸時代後期には播州赤穂(ばんしゅうあこう)や泉州堺(せんしゅうさかい)でも生産されるようになったんだよ。

Q. 緞通(だんつう)はだれがはじめたの？

A. 堺の手織緞通(ておりだんつう)は、天保 2 年[1831 年]堺の糸物商(いとものしょう)の藤本庄左衛門(ふじもとしょうざえもん)が泉利兵衛(いずみりへえ)に織らせて堺緞通(さかいだんつう)として売り出したのが始めとされてるよ。

Q. 堺緞通(さかいだんつう)って有名なの？

A. 明治 10 年[1877 年]の内国勸業博覧会(ないこくかんぎょうはくらんかい)に出品されたのをきっかけに有名になったよ。庄左衛門の孫で「緞通王(だんつうおう)」とよばれた藤本荘太郎(ふじもとしょうたろう)が技術改良を加え、アメリカに渡(わた)ったあと、海外の人たちにも知ってもらえるよう努力したんだよ。明治時代中期には国内だけでなく、海外にも盛んに輸出されてとても栄えたんだ。今日の堺における敷物生産の基盤(きばん)となったんだよ。

出典：堺市ホームページ[2012/8/15 現在]

http://www.city.sakai.lg.jp/city/_bunkazai/_kyouiku/bunkazai/sakaidantu.html